

2004年11月25日
株式会社 日立製作所
日本電気株式会社

日立と NEC、.NET Framework に対応した COBOL 開発環境「COBOL2002 for .NET Framework」を共同で製品化 COBOL を利用して容易に Web サービスアプリケーションの開発が可能

株式会社 日立製作所(本社:東京都千代田区、執行役社長:庄山 悦彦、以下 日立)、および、日本電気株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:金杉 明信、以下 NEC)は、マイクロソフト社のアプリケーション開発・実行環境である.NET Framework に対応した COBOL2002 規格^{*1} 準拠の COBOL 開発環境を共同で製品化し、「COBOL2002 for .NET Framework」の名称で本日から販売を開始します。

*1: COBOL2002 規格は、2002 年に新しく制定されたアプリケーション開発言語 COBOL の第 4 次国際規格 (ISO/IEC 1989:2002) です。1985 年に制定された第 3 次国際規格の仕様を包含し、互換性を維持しながら、オブジェクト指向をはじめとする近年のプログラム言語の進歩を積極的に取り入れています。

現在、企業のアプリケーション環境では、普及が進んでいる Web サービスなどの新しい技術と、これまでに蓄積されたプログラム資産の融合が求められています。このような状況において、従来、基幹系システム向けの主要開発言語として用いられてきた COBOL も、XML や Web サービスの活用や、PC サーバ環境でアプリケーションの連携を容易に実現できる.NET Framework への対応が求められています。こうしたニーズに応えるため、日立と NEC は 2003 年 7 月に.NET Framework に対応した COBOL 開発環境の共同開発に合意し、開発を進めてきました。この共同開発の具体的な成果として、新製品「COBOL2002 for .NET Framework」を発売します。

新製品の主な特長は以下の通りです。

1. .NET Framework に対応

.NET Framework に対応しているため、使い慣れた COBOL を利用して、容易に Web サービスアプリケーションを開発することや、セキュリティや堅牢性に優れたアプリケーションを開発することが可能です。また、プログラムの編集やコンパイル、デバッグなどの環境をマイクロソフト社の開発環境である Visual Studio(R) .NET に統合したため、Windows プラットフォームの統一された操作性や画面構成に基づいた効率的な開発が可能です。

2. COBOL2002 規格に準拠

プログラムの再利用を容易にするオブジェクト指向プログラミング機能など、COBOL2002 規格の主要な機能に準拠しています。オブジェクト指向プログラミングの採用により、COBOL で開発したプログラムと、Visual Basic .NET や Visual C#など.NET Framework 対応の他のオブジェクト指向プログラミング言語で開発したプログラムとの連携が容易になります。そのため、アプリケーション開発生産性を向上できます。

3. 従来の COBOL のプログラミングスタイルで.NET フレームワーククラスライブラリが利用可能

.NET Framework クラスライブラリで使用頻度の高い一部の機能は、従来の COBOL で使い慣れたプログラミングスタイルでも利用可能であり、オブジェクト指向のプログラミングを行う必要はありません。そのため、ログ出力や排他制御などのプログラム機能部品群である .NET Framework クラスライブラリ^{*2}の利用が容易です。

*2: クラスライブラリは、ある特定の機能を持ったプログラムを、オブジェクト指向プログラミング言語を用いて一つの「クラス」として部品化し、関連する複数のクラスを一つのファイルにまとめたもの。「クラス」はプログラムの部品として利用できるため、よく使われる汎用的なものをクラスライブラリに集めておくことで、プログラミングの労力を軽減することが可能。

4. 既存の COBOL アプリケーション資産の有効活用が可能

従来の COBOL 開発環境製品である日立の「COBOL2002」および NEC の「Open COBOL Factory21」との親和性を保持しており、新製品を利用して開発したアプリケーションと既存の COBOL アプリケーションとの容易な連携が可能です。そのため、既存の COBOL アプリケーション資産を有効活用できます。

なお、今回の共同開発にあたっては、マイクロソフト社の Visual Studio Industry Partner プログラム^{*3}(以下、VSIP プログラム)によって提供されるソフトウェア開発キットならびに各種技術支援を活用することで、両社の COBOL 開発環境の Visual Studio(R) .NET への完全統合を実現しました。

*3: VSIP プログラムは、マイクロソフト社が .NET Framework に対応するパートナー各社の開発支援ツールを Visual Studio .NET へ完全統合するために必要となるソフトウェア開発キットおよびマーケティング支援を提供するパートナー プログラムです。

また、今後、2005 年の発売が予定されている Visual Studio(R) 2005 への対応や、次期 Windows オペレーティングシステムである Longhorn(開発コード名)への対応も進めていきます。

マイクロソフト社からのコメント

マイクロソフトは、株式会社 日立製作所様ならびに日本電気株式会社様による「COBOL2002 for .NET Framework」の製品化を心からお慶び申し上げます。このたびの共同開発には、弊社「Visual Studio Industry Partner プログラム」をご活用いただいたことで Visual Studio .NET が備える高い開発生産性の下、Microsoft .NET による堅牢かつ可用性の高いシステムを既存の COBOL 資産を活かして構築いただけます。また、弊社の次期開発プラットフォーム「Visual Studio 2005」への対応も同時にご表明いただいたことで、将来に渡り最新の開発生産性を享受いただけます。「COBOL2002 for .NET Framework」により Windows プラットフォームおよび Microsoft .NET の普及が一層加速するものと大いに期待しております。

マイクロソフト株式会社
執行役 デベロッパーマーケティング本部
本部長 鈴木協一郎

価格及び出荷時期

製品名	標準価格	出荷時期
COBOL 2002 for .NET Framework	42 万円(税抜：40 万円) ~	2005 年 3 月 31 日

他社商品名称に関する表示

- ・Microsoft、Windows、Visual Studio は、米国及びその他の国における米国 Microsoft Corporation の登録商標です。
- ・WindowsRの正式名称は、MicrosoftR WindowsR Operating System です。
- ・その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

取扱事業部・照会先

株式会社日立製作所 情報・通信グループ ソフトウェア事業部

企画本部 計画部【担当：村上】

〒244 - 8555 神奈川県横浜市戸塚区戸塚町5030番地

電話：045 - 862 - 8996(ダイヤルイン)

<http://www.hitachi.co.jp/soft/cobol/>

日本電気株式会社 ユビキタスソフトウェア事業部

電話：03 - 3456 - 6978(ダイヤルイン)

E-Mail: info@cced.jp.nec.com

<http://www.sw.nec.co.jp/cced/dotnetcobol>

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
